

みんなキラリと

市では、誰もが自分らしく暮らすことのできるまち「ダイバーシティもりや」の実現を目指し、守谷市ダイバーシティ宣言を制定しました。このコーナーでは、さまざまな多様性を自分ごととして見つめてもらうため、毎回異なるテーマをご紹介します。



vol.7 SOGIとSOGIハラ

SOGI(ソギ・ソジ)について

■ これまでLGBTについて掲載してきましたが、そもそもLGBTという言葉自体が当事者と非当事者を分けているのではないかという観点から、SOGI(ソギ・ソジ)という言葉も用いられるようになっていきます。「SEXUAL ORIENTATION & GENDER IDENTITY」の頭文字をとった言葉で、「性的指向と性自認」を意味します。

当事者と非当事者の壁を取り除く役割を担う言葉であり、全ての人の属性を表して他人事としない概念として浸透してきています。

SOGIハラについて

■ SOGIという言葉が知られつつある一方で、性的指向や性自認についての嫌がらせや差別的言動を「SOGIハラメント(SOGIハラ)」と呼ぶことも増えています。

【SOGIハラ例】

- ・「彼氏／彼女いるの？」と聞く→異性が好きという思い込みの前提がある
- ・「あっち系なの？」と聞く
 - 言われた側が当事者だった場合、嘘をつくか、カミングアウトするかを強制してしまう。また、言われた側でなくとも当事者がその場にいた場合、「もし自分が聞かれたら」「自分のまわりには理解者はいない」といった不安の原因となる。
- ・「ゲイの人ってセンスが良くて面白い！」→メディアイメージの押し付け
- ・「男のくせに女々しいな」「もっと女の子らしくしなさい」
 - 自身の価値観の押し付け

大切なのは、SOGIはすべての人に関係があり、決してLGBTの方だけの話ではないと知ることです。「性的指向(好きになる性)が女性なのだからこうじゃなければおかしい」、「性自認(こころの性)が男性であるならこうに違いない」などといった「当たり前」と呼ばれるものを疑ってみましょう。